

岩村田商店街の取り組み

平成 27 年 3 月 25 日

長野県佐久市

岩村田本町商店街振興組合

代表理事 阿部 眞一

1、岩村田本町商店街振興組合の設立背景

① 立地：国際的リゾート地で有名な軽井沢の南西20km

中山道の22番目の宿場町。江戸時代以前より栄えた商業の町。
北は長野善光寺にいたる北国街道、南は山梨甲府にいたる佐久甲州街道がのびる、交通の要衝。伝統店も残る。



中山道岩村田宿(英泉画)

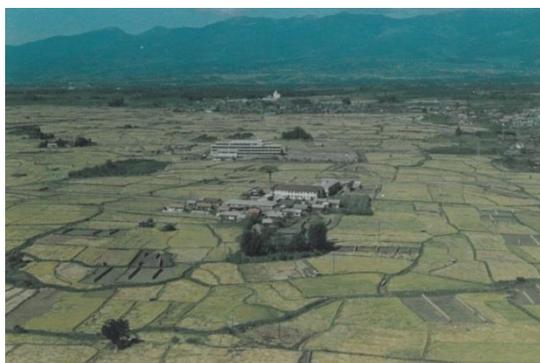


昭和20年代の商店街

② 転換期：平成10年の「長野冬季オリンピック」開催⇒大規模な再開発開始。

交通インフラの整備

上信越自動車道佐久インターチェンジの開通(平成5年)、長野新幹線佐久平駅の開業(平成10年)
長野新幹線「佐久平駅」周辺の開発が進行。



開発前の佐久平



開発後の佐久平駅周辺(大型店の出店ラッシュ)



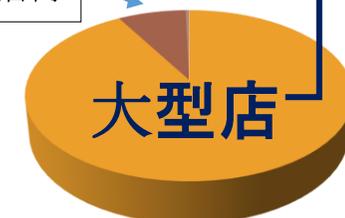
イオンやカインズなどの
ナショナルチェーン店

結果

岩村田地区の売場面積占有率は 大型店が91.6%

旧岩村田商店街は8%まで激減

岩村田商店街



売場面積占有率

2、活性化に向けての必死の取り組み

危機感を持った若手の商店街後継者（青年会）が**下克上**を断行



平成8年日本一若い振興組合

(平均年齢 36.7 歳)



①スピード感にあふれ、計画力、企画力、実践力を持ち合わせた組織に転換

「イベントこそ商店街活性化につながる」と信じ「日本一イベント」を次々に開催

例：「日本一長いロールケーキ」、「日本一長いお稲荷さん」などの日本一シリーズ、「景気時計判定会」（NHKBSで1時間放映）などマスコミも注目のイベントを続々実施

・・・当人たちは充実感にあふれていたが・・・



「打ち上げ花火のイベントで商店街の活性化はない」

(イベントで5000~6000と人が集まっても肝心の個店の売上げは伸びない)



② 学ぶことから気づいたこと

大きな壁にぶち当たり、気づいたことは

- ・「キラリと光る商店の集合体こそ魂がある商店街」



「キラリと光る商店」にするためには？



まずは自分の店をどうするかを「勉強」しなければ

(ア) 「後継者養成講座」開始

0泊2日 1年半 続けた 「自店を磨きこむ」ための勉強

「まずは自分のお店をどうするか？」



学ぶ中で気づいたこと

「商店街の役割」

「右手にソロバン 左手にコミュニティの担い手」



③ ①どんな商店街にするべきか？

(ア) 「商店街理念」の構築

- 地域密着顧客創造型商店街
- 地域の皆様と「ともに暮らす、働く、生きる」商店街

(イ) ゾーニングに着手

何度も作ったゾーニングマップ。自分たちの夢が盛り込まれる

「こんなところには、この機能を、あそこにはこの機能を」自分たちの町は、自分たちの手で思い描くゾーニング

中山道の趣きを感じられる歴史と文化の町づくり

中山道の宿場町として栄えた岩村田地区の歴史と文化をまもり、これに基づきデザインを景観形成に反映させることで、アイデンティティや魅力を強化する。生き生きとした町並みが岩村田地区の顔となり、活性化へとつながる。

景観形成要素である商店街の建物のファサード、道路景観、ストリートファニチャーなどについて秩序づけを行うことで、助に連続性を生み出し景観の調和を図る。

町の現況写真

③ 八十二銀行駐車場



① 商店街の裏の路地



② 郵便局前道路



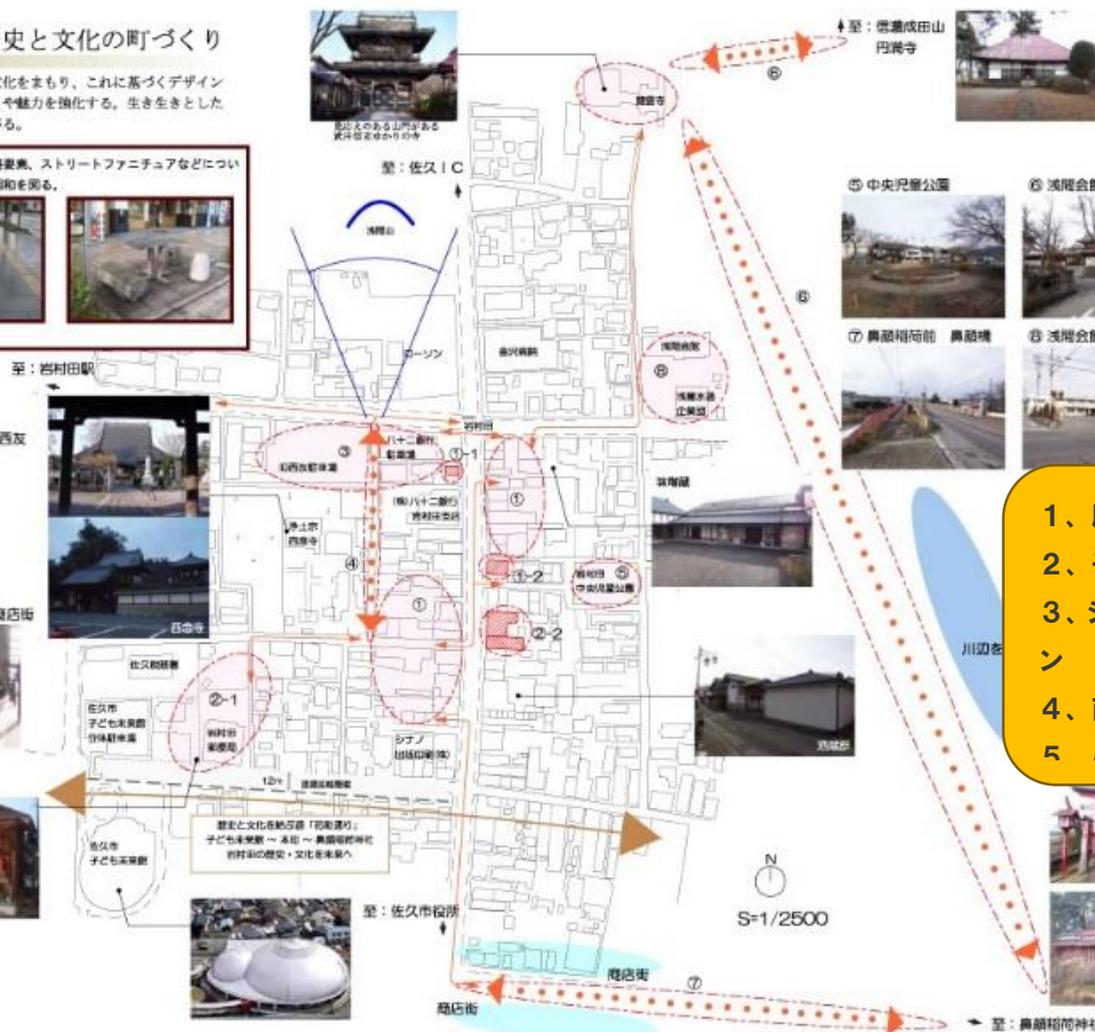
② 路地から郵便局を見る



④ 八十二銀行駐車場と旧西友駐車場の間の路地



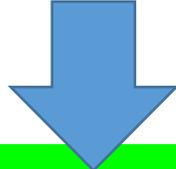
① 岩村田交差点前の商店街



- 1、歴史と文化の香るゾーン
- 2、子ども・子育て支援関連ゾーン
- 3、シニア支援・コミュニティ施設ゾーン
- 4、商業施設（飲食・物販）ゾーン
- 5、心安らぐ憩歩ゾーン

(ウ) 自らの手で「ビジョンづくりを開始

(平成 17 年) 活性化構想策定それ以後 4 回更新。
回を重ねるビジョンづくり。



みんなの夢が詰まった、事業プラン

地域の人々から拾った膨大なアンケート

地域のいろいろな立場
の人が集まって、
ビジョンづくり



実施してきた数々の空き店舗対策

5. 空き店舗対策 第一号 おいでなん処
平成14年3月

21

空き店舗対策 第二号 本町おかず市場
平成15年7月

地域コミュニティビジネスの原点

22

チャレンジャーショップ
空き店舗対策 第三号 本町手仕事村今の写真
平成16年

空き店舗を埋めるための独自のスキーム

23

手仕事村は「インキュベータシステム」として機能

手仕事村から起業していった若者の店

① でじたる屋
② ほぐし処 町家
③ デリ・デリ
④ 工房 浮草

28

地域の教育問題が声として浮上
多世代交流の学びの拠点として 全国初の商店街直営学習塾
平成21年1月

岩村田こねじ屋敷
地域のみんなで見守る子育てを

支援の必要な子どもたちのために
平成25年全国発 商店街直営通信制高校サポート校開校

- ・商店街のイベントで活躍
- ・就業体験で自信を
- ・商店街が見守って「自立」を

34

7. 地域ブランド創成事業 三月九日青春食堂
平成23年3月

高校生にフォーカス 商学連携事業へ発展

37

高校生チャレンジショップ「高校生商人甲子園」
あきんど

高校生の就業体験・実務実践の場として

38

8. 買い物弱者支援ミニスーパー みんなの市場
高校生チャレンジショップ2号店
平成23年11月

岩村田商店街に 毎月19日 1日特別店
みんなの市場
590円
900円
150円
250円
みんなの市場
TEL.0287-78-5434

39

9. 東北復興支援アンテナショップ 岩村田三陸屋
平成24年3月

継続的な復興支援、それは「商業支援」

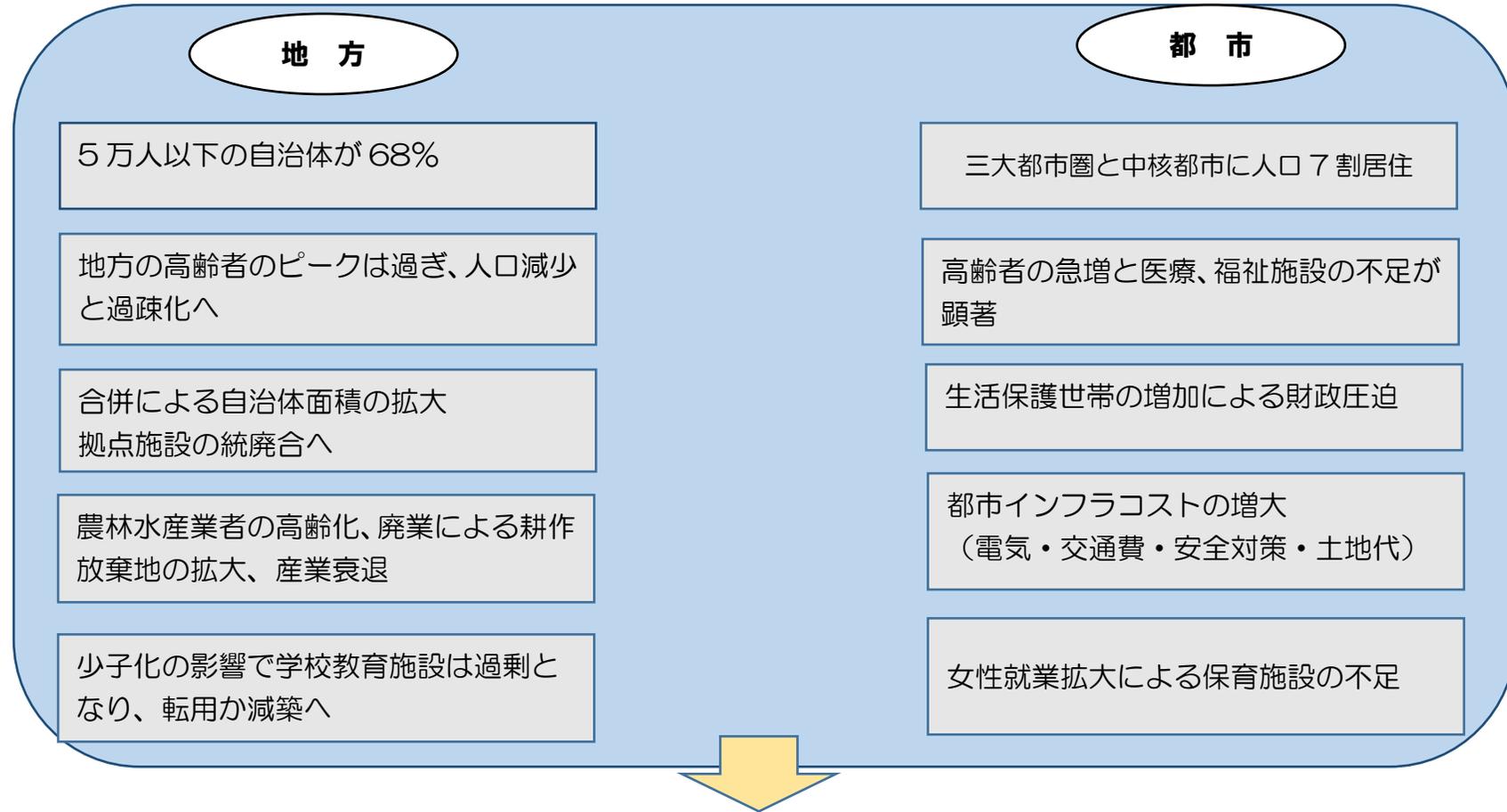
41

商店街の新しい集客のスタイル
つといの館 中山道岩村田宿「こてさんね」イベント写真
振興組合がディベロッパー

43

3、これからの地方創生の考え方

①人口減少顕著な地方と高齢者増の都市



佐久市のビジョン・グランドデザインは？(地域ごとの異なる戦略が必要)

規制緩和・権限移管・委譲・新制度へ

②地域のことは地域で決定し実行する考え方

1、自治体力(財政力とマネジメント能力)

徴税権の獲得⇒更なる改革が必要 稼げる自治体へ⇒地域資源の徹底活用

分権改革制度を活用できる「人」の育成 気づきと実行

首長の強いリーダーシップ

2、住民自治の推進(主体は住民)

住民の意識改革 住民の自助の推進 ソーシャルキャピタル(自ら地域投資へ)

個人から組織へ⇒NPO、社団法人、LLP、LLC、まちづくり会社への期待

3、経済合理性(民間企業の視点と主体へ 安いことがBESTではない)

早く、最も少ない予算で最大の効果を生む手法導入と主体と連携する。

公共サービスの見直しと民営化、地域化(住民に渡す)、IT化(早くグローバルに)

これからのまちづくりのなかの商店街が進むべき道

- ・今後ますます超高齢化社会が進行⇒

求められるのは

コンパクトシティ

「歩いて楽しく暮らせる街づくり」

- ・これから必要なのは「ローカルファースト」志向

ローカルファーストとは

「地域の目線にたって、地域を第一に優先的に考え、地域の資源、文化、歴史を大切にしたい、持続可能な地域社会の形成していく」という考え方。この根底にあるのは、顔の見える関係をもとに、地域コミュニティの中で、「地域の資源(素材)」を生かして「人の営み(人間力)」と「暮らしの営み(経済力)」を大切に、自分達の知恵や手法で地域のまちづくりを進めようとする考え方である。

③ ローカルファーストの切り口

「安い、大きい、便利」といった**経済優先**から、「心地よい、美しい、社会に役立つ」といった**生活文化優先**の時代へ
同質化が進み飽和市場となった今、等身大でリアルな「ローカル」の切り口が共感を広げている。

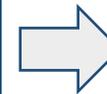
**グローバルスタンダードから
ローカルスタンダードの時代へ**

ローカルファーストに必要なこと

- 1、 人が住みたくなるよう、中心部に魅力を作る。
- 2、 人と人が集まり、楽しい時間を共有する場をつくること。
- 3、 地域の第1次、第2次、第3次産業が融合する仕組みをつくること。



地域資源を使った地域の魅力が作られることで、地域のヒト、モノ、経済力が育ち、定住人口、交流人口、地域経済循環を生む



持続可能
な街

④長寿社会に生まれた重要な課題

1、これからの長寿社会で大切なこと

- ⇒個々の健康意識を高め、自立して過ごす時間を延ばす
- ⇒身体機能が衰えても、住み慣れた街で十分なサポートとともに生活を持続
- ⇒希薄になったコミュニティを見直し、人の繋がりを創ること

2、90年の人生をいかに生きるか？

- ・2つのキャリアを持つ二毛作人生に(これまでの人生50年から90年になることで)
 - ・社会インフラの見直し
- (建物や、交通機関だけでなく、医療や雇用、教育の場などソフトのインフラも人生90年型に)



- ・佐久市のまちづくりのビジョン、グランドデザインゾーニング
- ・地方自治体のイニシアティブを持ったまちづくり



必須

答えは地域の足元にある

⑤これからの長寿社会で大切なこと

- 1、個々が健康意識を高め、自立して過ごす時間（健康寿命）を延ばすこと
- 2、病気や老いで身体の機能が衰えても、住み慣れた街で十分なサポートと共に生活を続けられること
- 3、そして希薄になったと言われるコミュニティを見直し、人の繋がりをしっかりとつくること
- 4、保険、年金といった健康や生活を支える行政の施策の抜本的な見直し
- 5、街の施設や一般家屋のバリアフリー化の一層の標準化
- 6、「仕事」は生きる糧を得るだけでなく、生涯を通じて働くことが自己実現や社会還元という価値を高めるという意識変革



住み慣れた地域で最期まで自分らしく老いることができる社会 = Aging Place